

1)

担当：園山隆之

題：青年期(Adolescents)に対するコロナワクチンについて

結論：ファイザー製のワクチンは非常に高い有効性と若年成人と同様な副反応を示した

原題：Safety, Immunogenicity, and Efficacy of the BNT162b2 Covid-19 Vaccine in Adolescents

N Engl J Med 2021; 385:239-250

本文：青年期に対して、アメリカのFDAに最近認可されることになったファイザー製のワクチン(BNT162b2 Pfizer-BioNTech社製)についての結果が現在公表されている。12-15歳の約2300人の青年期は21日間隔をあけて2回打ちをするワクチン群とプラセボ群にランダムに割り付けられた。

重要な結果は以下のとおりである。

- ・副反応は16-25歳の若年成人群と同様で、接種部位の疼痛(80-85%)、発熱(20%)であり、2回目の接種において顕著であった。
- ・2回目接種後の免疫応答は16-25歳の若年成人より高値であった。
- ・ワクチンの有効率は100%であった。

プラセボグループでは16人発症したが、ワクチン接種群では0人であった。

1回目接種後にワクチン接種群で3人発症し、プラセボ群では12人発症した。

コメント：青年期においてファイザー製のワクチンは、若年成人と同様な免疫応答と副反応があり、素晴らしい全体的有効性であった。確かに若年者はコロナ感染のリスクは低いけれども、(まず青年期に行い、今後すぐに子供達にも行われるであろう)ワクチン接種はウィルスの拡散を防ぎ、変異株の増殖を抑え、我々の生活をパンデミック前の世界に戻すカギとなる。

2)

担当：大居慎治

題：Covid-19 の遷延する症状の疫学

結論：ARS-Cov2 感染後の 3/4 もの患者が、少なくとも 1 つ以上の遷延する症状を抱えていた。

原題：Nasserie T et al

Assessment of the frequency and variety of persistent symptoms among patients with COVID-19. A systematic review.

JAMA Netw Open 2021 May 26. E2111417

本文：SARS-Cov2 の感染から回復したものの症状が続く患者、いわゆる long-haulers の研究は多いが、規模や質、方法論でさまざまであり、有病率や症状の分類の扱いに混乱が見られる。

今回のメタ分析においては、遷延する COVID-19 後の症状についての研究は 2000 以上認めたが、そのうち 10000 人以上の対象があって症状を 84 に細かく分けた 45 の研究が分析に値すると判断した。

ただこれらは非常に不均一で重症度や元々の感染症の状態にもばらつきがあった。3/4 近くの患者は少なくとも 1 つの遷延する症状があった。平均 2-4 ヶ月間、中には 6-8 ヶ月間続くものもあった。

多かったのは倦怠感 (40%)、息切れ (36%)、無臭症 (24%)、不安 (22%)、遷延する席 (24%)、無味覚 (16%)、うつ状態 (15%) であった。

コメント：元々の研究が非常に不均一なため、質の高いメタ分析というよりも、大規模なケースシリーズからなる包括的な分析であると言ったほうが良い。

ガイドンスや治療には向かないが、患者にアドバイスすることには役立つと思われる。